

## 医療系専門職連携教育におけるオンラインワークショップの試み

長宗雅美、吾妻雅彦、岩田貴、赤池雅史

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 医療教育開発センター)

## 1. はじめに

徳島大学蔵本キャンパスでは、医学部、歯学部、薬学部の3つの医療系学部があり、専門職連携教育として、2011年度よりチーム医療を行うための基盤形成を目的とした「蔵本地区1年生合同ワークショップ(WS)」を実施している。また、次のステップとして、2017年度から高学年時にそれぞれの専門知識を共有してシナリオ患者のサポートを検討する「学部連携PBLチュートリアル」を実施している。

2021年度はCovid-19感染症の感染リスクの問題により、複数の学部・学科から多人数の学生が集う対面でのWS開催は困難であった。そこで、専門職連携教育をZoomを用いてオンラインで実施したので報告する。

## 2. 実施状況

オンライン(Zoom)で、2つのワークショップを実施した。

《参加者の内訳(人)》

		1年生合同WS	学部連携PBLチュートリアル
医学部	医学科	114	121
	医科栄養学科	50	51
	保健学科(看護)	70	72
	保健学科(放射)	36	36
	保健学科(検査)	17	6
歯学部	歯学科	36	44
	口腔保健学科	15	15
薬学部		80	2
参加学生合計		418	347
学生参加率		97%	98%
チューター		24	10
サポートTA		10	8

《1年生合同ワークショップ》

蔵本地区の1年生が学部・学科・専攻の垣根を越えて話し合うことを目指し実施。

- ① 学部・学科混在の6名の班を作成。
- ② 1名のチューターが3つの班を担当。
- ③ 2021年度のテーマ「新型コロナウイルスをどう乗り越えるか」
- ④ 基調講演視聴後、ブレイクアウトルームを移動し討議・発表。全員が発表を経験する。
- ⑤ 討議にWhiteboard Foxアプリを活用。
- ⑥ 事前準備：説明会を12回設定。1回参加。
- ⑦ TAを活用したサポート体制の構築。

《学部連携PBLチュートリアル》

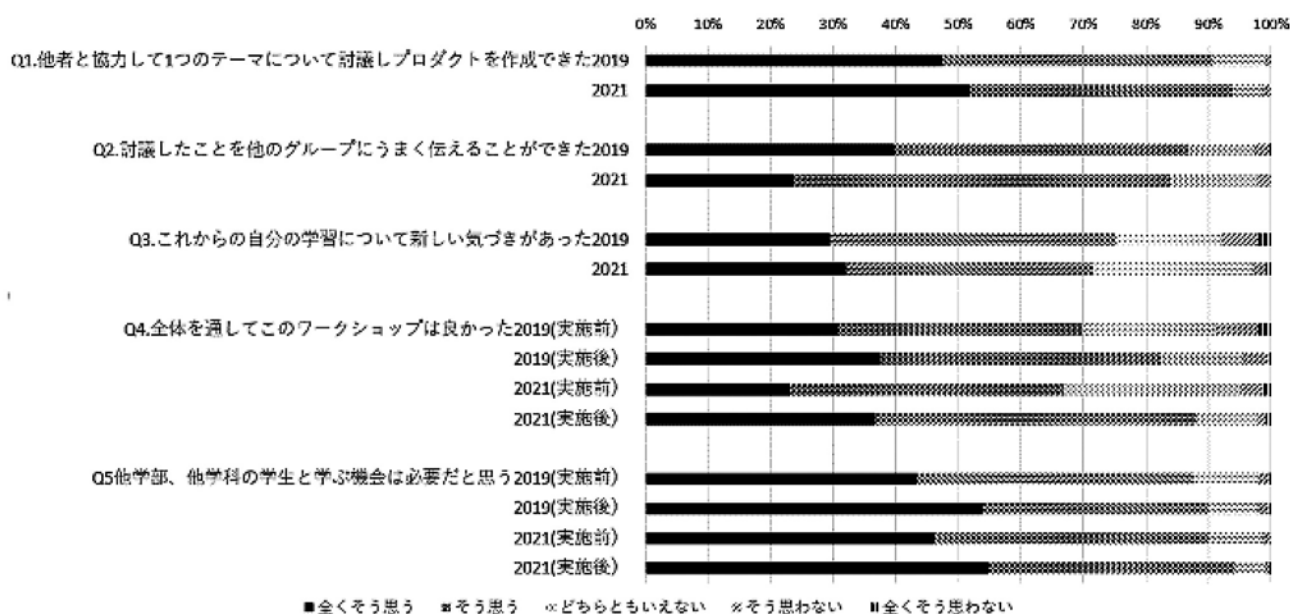
専門知識を学んだ3-4年生の学生が自分の職種の専門性を意識し、他職種と協働してシナリオ患者のサポート案を立案する。

- ① 学部・学科混在の8-9名の班を作成。
- ② 1名のチューターが4つの班を担当。
- ③ ブレイクアウトルームを移動し討議・発表。各班の代表者が発表し、他のメンバーは適宜補足説明等、発表者をサポートする。
- ④ 討議に、Zoomホワイトボードを活用。
- ⑤ 事前準備：配布資料、説明動画の提示。
- ⑥ TAを活用したサポート体制の構築。

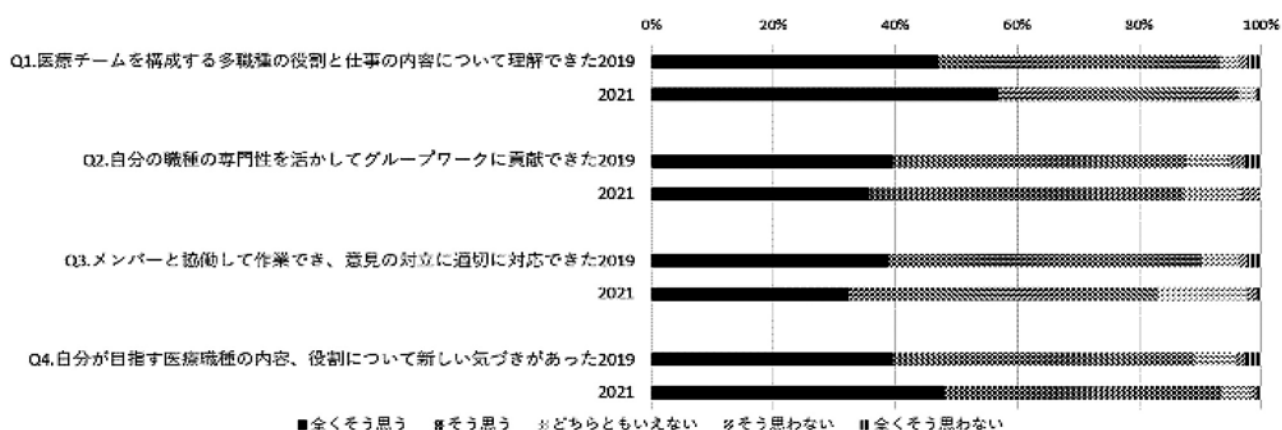
## 3. 方法

今回の実施後アンケート結果と2019年度に対面WSを実施した際の実施後アンケート結果を比較検討した。なお、2020年度はCovid-19感染症対応として動画視聴及びレポート提出を実施したため、2019年度の対面WS実施後のアンケートと比較した。

1年生合同WS実施後アンケート（回答率2019-81%、2021-85%）



学部連携PBLチュートリアル実施後アンケート（回答率2019-88%、2021-92%）



#### 4. 結果および考察

すべての質問項目で2019年度、2021年度とも、ほぼ同様の結果であり、2021年度の評価の方が上回っている項目も見られ、オンラインのワークショップでも対面と同様の効果が期待できると考えられた。事前準備としては、学生、教員共にZoomアプリのバージョン確認・更新やネット環境の確認等、基本的な準備が不可欠であり、また最も重要であることが明らかとなった。学部連携PBLチュートリアルについては、実施後のアンケートで半数が対面での実施を希望しており、オンラインを希望したものは16%であったことは興味深い。1年次の身近なテーマでの意見交換ではオンラインと対面に大きな差はないかもしれない

が、高学年になり、より専門的な討議が必要な場面では、オンラインでの実施では不十分と感じている可能性がある。

#### 5. まとめ

約400名のWSを対面実施する場合、場所の確保や物品準備、誘導等、多くの準備が必要になる。一方、オンライン実施では、これらの準備は大幅に簡素化できる。今回、オンラインでも対面と同様の教育効果が得られることがわかり、今後の専門職連携教育に活用できるとともに、他大学や離れた地域の学生とのWSへの発展も期待できる。オンラインと対面の両者の利点を活かした活用が必要である。